

胃がんリスク層別化検査は、「ヘリコバクターピロリ菌感染の有無を調べる検査」と「胃粘膜萎縮（老化）の有無を調べる検査」を組み合わせることで胃の健康度を分類するものです。「がんを見つける検査」ではありません。



A群 おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往のある方が含まれます。一度は内視鏡検査の画像検査を受けることが理想的です。



B群 少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。胃がんのリスクもあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。



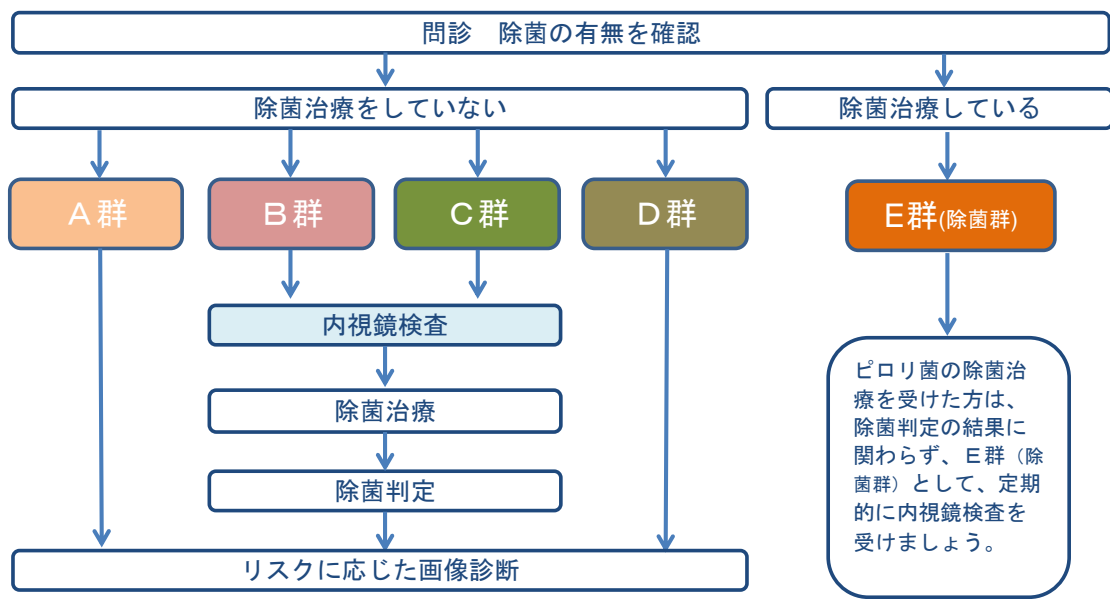
C群 萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。



D群 萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡など診断を受けご相談ください。



E群 ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらずE群（除菌群）として定期的な内視鏡検査を受けましょう。E群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡による経過観察が必要です。
※ピロリ菌の除菌治療を受けた方はE群となります。



今回の健診センターの結果では、除菌治療を受けた方もABCDの分類で報告させていただいております。あらかじめご了承ください。

★ 何かご不明な点がございましたら、受診したセンターまでご連絡ください
山王健診センター TEL 03-5570-1871
大久保健診センター TEL 03-5925-5320